



※写真はイメージです。

No.02

三陸防災復興シンポジウム2019

※事業No.13「三陸防災復興展示会」と一体開催

実施 時期	第1回 2019年6月1日(土)～6月2日(日)
	第2回 2019年6月28日(金)～6月29日(土)
	第3回 2019年7月19日(金)～7月20日(土)
	第4回 2019年7月26日(金)～7月27日(土)

実施場所

- ・第1回 釜石市民ホール(釜石市)
- ・第2回 久慈市文化会館(久慈市)
- ・第3回 大船渡市民体育館(大船渡市)
- ・第4回 宮古市市民交流センター(宮古市)

実施主体

主催：三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会
共催：開催地市町村(調整中)

事業目的

復興に取り組んでいる地域の姿を発信し、震災の風化を防ぐとともに、国内外からの復興への支援に対する感謝を示す。

東日本大震災津波の記憶と教訓を伝えることにより、日本国内はもとより、世界の防災力向上へ貢献する。

ターゲット

自治体関係者(県内外)、国内外の防災関係者、全国の地方公共団体等からの応援職員、ボランティアでつながりを持った方々、一般参加者

【集客目標】 13,600人(シンポジウム 1,100人、展示等 12,500人(全4回延人数))

実施市町村

釜石市、久慈市、大船渡市、宮古市

関連事業

No.1 三陸防災復興プロジェクト2019 オープニングセレモニー
(第1回シンポジウムと一体的に開催)

No.13 三陸防災復興展示会(各シンポジウムと一体的に開催)

事業内容

2015年に宮城県仙台市で開催された第3回国連防災世界会議において、各国は防災への決意を確認した。当該会議で行動指針として策定された「仙台防災枠組2015-2030」に掲げる「災害への備えの向上とより良い復興(Build Back Better)」につながるよう4つのテーマで防災力強化や被災後の地域の再生を考えるためのシンポジウムを開催する。

(1)第1回[釜石市]:これからの防災

東日本大震災津波の教訓と、今後の災害に対する回復力や強靭性を高めるために必要とされる平時の備えについて討論を行う。

①シンポジウム・パネルディスカッション

ア 復興活動報告

東日本大震災津波に対する国際的な支援活動の状況や、若者をはじめとした地域住民によるまちの再生に向けた活動状況の報告

イ 今後の防災力向上に向けた講演及びパネルディスカッション

国際的な防災の動きのほか、災害に対する回復力や強靭性の向上に対する有識者の講演とともに、これからの防災や災害救助に向けたパネルディスカッションを実施

②現地視察及び分科会

鵜住居地区の津波伝承施設や釜石鵜住居復興スタジアム等、釜石市内の復興及び防災の象徴となる施設の視察のほか、復興教育及び災害看護を中心とした分科会を開催

(2)第2回[久慈市]:なりわいの再生と新たな三陸の創造

産業分野における災害リスク軽減に向け、東日本大震災津波の事実を踏まえた教訓を発信する。併せて、単に元に戻すことにとどまらない産業復興のあり方について議論を深める。

①シンポジウム

ア 産業分野における災害リスク軽減に向けた講演

東日本大震災津波を教訓とした災害リスク軽減に向けて必要となる取組等に係る講演

イ 活動状況等報告

東日本大震災津波のほか、近年の災害被災地における産業復興に向けた取組の現状と今後の展望に係る報告

②現地視察

基幹産業の復興の取組現場や、復興とともに新たな産業の創出に向けた動きを進めている地域の現地視察の実施

事業内容

- (3)第3回[大船渡市]:地域コミュニティを基盤とした防災力の向上
大災害における地域防災力の発揮に向けて、何が必要か議論を深める。
- ①地域における防災力強化に向けた講演
- ア 地域コミュニティを基盤とした防災力強化に向けた必要となる取組に係る講演
- イ 活動状況等報告
自主防災組織等の活動と大震災の教訓を踏まえた今後の展望に係る報告のほか、地域防災力強化に向けた全国各地域の活動状況の報告
- ②現地視察
開催地の復興拠点整備の状況のほか、自主防災組織の拠点等の視察
- (4)第4回[宮古市]:交通インフラの復旧・復興と交通網を核とした交流の拡大
- ①交通を中核とした取組に係る情勢報告
フェリーの運航を契機とした北海道胆振地区との連携のほか、新たな交通ネットワークを生かした交流の現状と今後の展望に係る報告
- ②新たな交通網を核とした交流の拡大に向けたディスカッションの実施

期待される効果

- ・ 東日本大震災津波からの復興の取組や被災地域の状況の発信を通じて、風化の防止が図られ、復興への理解や継続的な支援・参画が促進される。
- ・ 若者の活動の場や国内外の支援者との交流の場の創出により、支援者とのつながりが強化され、次世代へ継承される。
- ・ 東日本大震災津波の経験を踏まえた取組を共有することにより、住民の防災意識の向上が図られる。
- ・ 平時から備えるべき事柄の発信により、地域の防災力の向上が図られるとともに、国内外の防災力の向上に寄与することができる。

今後の展開方向

- ・ 東日本大震災津波の事実と教訓、復興の取組により培われた知見の発信により、世界の災害リスク軽減戦略の策定に資するなど、「復興」と「防災」の先進的地域として、日本各地や世界とつながり、将来の防災力向上に貢献する。
- ・ 復興の発信活動や支援者との交流等に若者が参画することにより、次世代に防災の知見や支援者とのつながりが継承されるとともに、復興とその先の地域振興をけん引する人材の育成につなげる。
- ・ 防災教育の推進や啓発活動を通じ、地域の防災力を強化し、防災文化として培っていく。
- ・ つながりや絆を交流へと発展させていくとともに、復興を担う人材育成やネットワークの強化を図り、復興の取組を進める。
- ・ 三陸地域の多様な魅力の発信や、新たな交通ネットワークなどを活用した観光・産業振興等のまちづくりについて学ぶことにより、地域産業の振興や交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげる。